

生駒市ごみ減量市民会議(H29 年度第 2 回) 会議録 (要旨)

1. 開催日時 平成 29 年 7 月 10 日(月) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 40 分
2. 市役所 4 階 403・404 会議室
3. 会議次第

報告事項

- (1) いこま寿大学実務講習会について
- (2) 生ごみ処理器「キエーロ」製作講座について
- (3) 環境フェスティバルについて

協議事項

- (1) 生駒市ごみ減量市民会議の目的の再確認について
 - (2) 夏休み環境自由研究 「ごみキエーロしよう!」
生ごみ処理器「キエーロ」製作講座
 - (3) 一日環境教室
 - (4) 分科会について
4. 出席者 (敬称略)

【参加者】坂本 剛伸、藤堂 宏子、藤澤 清二、永野 洋子、山下 博史、田中 勝久、藤尾 庸子、下山 一則、奥田 高弘、小山 忠昭、山口 昭夫、藤中 章夫、寺井 孝幸、大隈 利明

【事務局】吉岡 (市民部長)、吉川 (環境保全課長)、竹本 (環境保全課主幹)、大窪 (環境モデル都市推進課課長補佐)、西井 (環境保全課事業係長)

5. 欠席者 (敬称略) 石川 千明
6. 傍聴者 0 名
7. 会議内容 (要旨)

報告事項

●いこま寿大学実務講習会について

事務局 <資料平成 29 年度いこま寿大学実務講習会(5.16 開催)記録(要旨)、平成 29 年度いこま寿大学実務講習会(5.17 開催)記録(要旨)の説明>

座 長 事務局の説明に対して質問やご意見ございませんか。

参加者 どういう施策をすれば共感を得られるか等を聞き出せる懇談会ができればと考えています。

座 長 懇談会の進め方については、引き続き検討していきたいと思います。

参加者 興味(関心)が無い方にどういうふうに浸透させるか考える必要がある。

座 長 人の輪を増やしていくこと、関心の度合いにもよりますが、生活の場で関心を持つ人、生活は誰もが経験していることですので、先程と同じで共通の本質ではないかと感じております。

今回新しい試みで寿大学の懇談会を実施しましたが、最初から成功を期待するのではなく、一つの啓蒙をしていく結果とっており、横に広めていくことが

重要と考えています。1回目としては、16名参加していただいているので良い方かと考えております。

●生ごみ処理器「キエーロ」製作講座について

事務局 <生ごみ処理器「キエーロ」製作講座 実施結果の説明>

座長 事務局の説明に対して質問やご意見ございませんか。

参加者 来られた方の年齢や性別はどうでしたか。

事務局 若干女性が多かった。年齢は幅広く参加いただいた。残念なことに90名募集して37名の参加になった。

座長 少人数でも人から人へ広めていくことがこの会議の本質と感じています。

参加者 今回は、写真を入れた分かりやすい解説書のようなものを作ったので、それを基に説明させてもらったので、理解していただき易かったと思います。同時に葉山町のビデオも使ったが、ビデオの中のキエーロがタイプの違うものなので生駒市独自の解説書だけで説明したほうが、混乱しなくて良かったのではないかと思った。今後は、ビデオを使うなら生駒市の現状にあったものを作ったほうが利用者としては分かりやすい。

座長 環境フェスティバルでも、以前に使っていた人からキエーロについてご意見をいただいたが、使わなくなった理由がビデオにあって、ビデオが教科書のように、そのとおりにやっていたら面倒になったとのことだった。やはり、私達の生駒市にあったガイドをつくる必要があると思った。

参加者 今回の講座では、製作された方は、自分でつくったものだから愛着もあって、がんばってみようと思ってくださっていると思う。

●環境フェスティバルについて

事務局 <ごみ減量市民会議アンケート結果集計(環境フェスティバル)等の説明>

座長 事務局の説明に対して質問やご意見ございませんか。

参加者 小型家電回収ボックスの質問は、質問の仕方が悪い面もあるが、シールアンケートをしていて、私見だか、この制度自体を知らない人が意外に多いと感じた。

参加者 私の知り合いの方に教えたが、小型家電回収ボックスについては、10名中10名が知らなかった。

参加者 環境フェスティバルは、環境に関心が高い人が多いのに、小型家電回収ボックスについては、意外に知らない人が多い。

座長 広報でアナウンスしていても見ていない人が多い。広報だけでは不十分だ。小型家電回収ボックスは、表現が硬い。自分の生活には関係が無いと思っている人が多い。

参加者 リレーセンターでのリユース可能な大型ごみの無料回収は、シールを貼らずに持って行って、対象になるかの判定を受けたら良いのか。

座長 リレーセンターが遠いという意見もあるし、マイカーに乗るものまでで、タンクは持っていけない。自分で運ばなければならない課題もある。シールを貼ら

- ずに持っていった方が良いというアドバイスも必要になる。今回のアンケートでこのような物が無料で出すことができると広められたことが成果だと思う。
- 参加者 広報等の告知しているものについては、100%市民の理解を得られないので繰り返しやっていかなければならないが、細かなことについては、生駒市ごみ減量市民会議（以下「市民会議」いう。）としては、いろんな機会に対面で話をしながら輪を広める地道な努力が必要であると感じました。
- 座 長 前回のシールアンケートのキーワードは、有料化後どうなったかということで、今回のアンケートは、新たな制度がありますがご存じですか、ごみの分別をしていきたいと思いますというステージに移行していますが、一つ一つの輪をひろめていくことが、我々に掲げられたミッションとっております。
- 参加者 他になにがございますか。
- 参加者 会議のブースが見え難いところがあった。もう少しわかりやすいところにできないのか。少々恥ずかしいこともかまわないので、サンドイッチマンでもやらせてもらうので目立つ格好でピーアールしてもいいのではないかと。
- 座 長 私的には、スペースが広く取れて良かったと思っているが、新たな目標が加わった。奥まっていたが人通りは多かったと思う。
- 参加者 人通りが多くて並んでもらうような状況もあった。これ以上増えても対応できない。
- 座 長 場所よりもアンケートを取る人のテクニックもあると思う。ただ、チラシや広報に市民会議の名前が載っていなかったことと、スタンプラリーで良く聞かれたが今回は、スタンプラリーにも参加してはどうか。
- 事務局 スタンプラリーは事前に希望を出す必要があるの、来年は、申し出をすれば出来ると思う。広報は全部を載せきれないので無理だが、チラシには全ての出展者を載せている。
- 座 長 スタンプラリーで回っているひとは、全ての場所でスタンプをくれるものと思っている。結構道案内も必要だった。行政としても考えてほしい。
- 参加者 普段は、会議を見つめ合っているだけだが、ああいう場でご飯を食べながら気軽に一緒に何かを活動して話あえたのがよかった。有意義な活動だった。
- 参加者 シールアンケートは、参加しやすいし、アンケートを答えるときに、家族で話し合いながらされていたので、良いことだと思った。
- 参加者 小学4年生の子どもも学校で環境を勉強していると親子で話をされていて良かった。リユース可能な大型ごみについても、リレーセンターへ大事な家具を持ち込んだ人から、対象にならなかったと聞いた。何人もから言われた。有料化でお金が溜まってきたら、そんなことを言わずに引き取ってあげてもいいのではないかと。小型家電回収ボックスについても公民館レベルで回収ボックスを設けたらどうか。有料化の名目が立つし、目に見えた成果が必要ではないか。住民に歩み寄ることも必要だ。
- 事務局 管理者がいないところに設置するのは問題がある。手を突っ込んで持って行く

人もいるので、公民館でも管理者がいれば可能なところもあると思う。今後、ホームセンター等に依頼していくことも考えたい。

座長 露出が必要、役所や公民館の中にあると見えない。露出していけば人の目にもとまる。小型家電の回収を悪く言う人がいない。いろんなことで「こんなものがあるかもしれない」と言われるが、これに関しては言われたことがない。

事務局 小さな家電が捨てられると思っていない人が意外に多かった。例えば電気髭剃機や電池を取った時計等の説明をしたが、「そんなものも入れられるの」という理解の人が多かった。

座長 そうでしょう。ただ、場所を聞いたら「そこまで行くの」と言われる。行政の課題だと思います。

事務局 スーパー等であれば、毎日行かれるわけですし、そういう所に置かせてもらえればと思います。

座長 このアンケートが市民の声で、小型家電回収ボックスを知らないと言っている。生活に密着しているところにお金を使うのは良いことだ。市民会議で何かできることがあれば協力してやっていくので良いのではないか。このアンケートを課題として具体的に降ろしていきたいと思います。

協議事項

●生駒市ごみ減量市民会議の目的の再確認について

事務局 市民会議の目的についてですが、会議開催から1年が経過し再確認いただく必要があると思われましたので、今回、協議事項の中に入れさせていただいたものであります。

この会議のメンバーになっていただく時の準備会や、この会議を立ち上げる当初から申し上げておりますが、この会議はごみ有料化の是非等について議論するものではなく、ごみ減量に向けて、市民・事業者・行政が連携で効果的な方策を検討し実践し、活動することを目的としております。これまでの会議でも有料化の検証云々という話が出たこともございましたが、今後の会議では、目的に沿ってご協議いただきますようお願いいたします。

座長 事務局に話を出してもらったのは、新しいメンバーも加わって、どのような引き継ぎをいただいたか分かりませんし、前回、メンバーからごみ有料化云々という話もございましたので、この会議の目的を全員で再確認いただきたいということで協議事項にさせていただきました。

補足するとこのメンバーは、全体会議のメンバーが継続して入って貰っていることから、参加の時にこういう趣旨で参加いただくが賛同いただける場合は参加していただくとの条件でメンバーになっていただいています。自治連合会からの参加が1名から5名になってことが変更になっているがその他のメンバー構成は変更していません。前回の会議で点と点の空中戦の論議になってしまっていて、実のある議論は出来ないのではないかと感じております。この場を借りまして整理していきたいと思っております。

1つ案件は、前回の会議で水切りの件で乾燥させたらいい、普及させたらいいとの意見が出ていました。それについて基本ですから否定はしませんが、私が既に水切りはしていますといったことに対して、数人の方から水切りはしていないとの意見がありましたが、我々がとったアンケートで既に80%の方が水切りをしているとの結果がでています。プラスチック製容器包装やミックスペーパーと同様に既にされています。アンケートで結果が出ているのであれば、どんな方法で水切りをすれば良いとの話なら分かるが、そうでなかったのが空中戦になってしまった。私個人のマネージメントは、点の点ではなく、線であります。昨日までの蓄積があって今日がある、今日があって明日があると考えております。この会議は、細かいことは省きますが、ごみ半減プランがスタートで有料化検討委員会を経由してごみ半減トライアルを行い、行政がごみ有料化を行ったという流れできています。市民会議が今日突然に湧いてきたものではなくこういう流れできています。私は途中からの参加ですから、過去の資料を見なければ、過去どのような議論されたかわかりませんが、賛成する反対するということは論外として、このように進んできたわけです。この流れの上に市民会議があるわけです。

一つの例が、先ほどの水切りの件、もう一つが前回の「チラシ」の件です。前回のメンバーの発言で「このチラシをどうするんですか。どこで配るんですか」という質問がありました。去年のこの市民会議でみんなでチラシを作ろうとなって「活動する時に名刺とかツールがないと説明しにくいですね」ということでこのチラシをつくることになって、その時にアンケートとかをしていた時期ですので、「市民が疑問に思っているトピックスを裏面に入れていきましょう」ということになって、去年は、自治懇談会に参加された方はわかっていると思いますが、自治会懇談会で配っています。本人も入った会議で決まったものに対して「どこで配るんですか」という質問があったわけです。

また、既にやっているのに「どう水切りをすれば良いか」という話をするのならともかく、「水切りをやったらいいですよ」という発言をされています。我々を否定しているのかと思いました。市民会議の活動はどれが正解かということとはわかりませんが、できることをやっということうことです。これが先ほどメンバーから発言があった一つ一つの輪を広げていきましょう、私が最初から言っている地道な活動になりますよということ。

水切りとチラシにこのような発言があったことは非常に残念です。

もう一つ、キエーロについて、生ごみがごみの中で50%、数10%占めているということは、ずっと述べられていることで、生ごみを減らしていかなければいけないということは、以前の会議からずっと述べられているし、懇談会のパワーポイント資料でもごみの組成調査の結果も載せているわけで、行政も生ごみを減らさなくてはならないということをやっということうことをずっと説明しているわけです。チラシにも生ごみ対策があって、行政が今はキエーロをやっということうことを言っ

ているわけです。

前回の会議でキエーロに特化と言われていましたが、キエーロに特化してとは言っていない、行政が第一優先のツールとしてキエーロを選んでいるわけです。市民会議がそれを受けて、半年間、我々がキエーロトライアルをして、これを踏まえて、これからの広報・昨年のフェスティバルでの啓発をやっていますが、まだまだ答えを出していないわけです。

キエーロだけで生ごみが消えるとはどこにも書いていないし、誰もそんなことを言っていない。生ごみを減らす為の一つのツールとしてキエーロを行政が選んで、多くの補助金も出しているわけです。

それを受けて我々は、どういう活動をしていくのか。

水切りは基本だから皆でやっているわけですし、水切りが基本だということは、誰も否定しないが、ごみの減量を意識しなくても、台所まわりを綺麗にしようということで、自然と水切りをやっているという意見もあったわけです。

片やキエーロについては、水切りせずにキエーロに入れることもできるというメリットもありますよということもあるわけです。

そういった意味で議論することは良いですが、今までにやってきた事実に基づいたことをベースにして、これからどうしていこうということを決めていきたいというのが私の考えです。

この会議が主ですが、これだけではないです。この会議をただでのごみは減りません。この会議で出た意見を我々が吸収して、我々が日常生活で啓発をしていく、ある時は会議全体で懇談会をしましょう、イベントでの啓発をしましょうということになります。だから、初めからいっている地道な活動になると言っているのです。

前回の会議の内容や議事録を見ていて、会議が中心になって進んでいくのは、あまりごみの減量に繋がらないかと思いましたので、あとのところで、本日は、分科会を提案しまして、少人数でテーマに絞ってフリートークのグループ討議を設けたいと思っております。以上です。

●夏休み環境自由研究 「ごみキエーロしよう!」生ごみ処理器「キエーロ」製作講座
事務局 <夏休み環境自由研究「ごみキエーロしよう!」生ごみ処理器「キエーロ」製作講座概要の説明>

座長 これは去年からの継続ですか。

事務局 今年は、市民会議にも参加して貰って、キエーロの使い方を説明してもらいますが、去年は、市と教育委員会で実施し、市民会議は参加していただけていません。

座長 教育委員会から何かフォローはあるんですか。

事務局 各小学校を經由してレポートを提出していただきます。環境自由研究ということで、自分で作ったキエーロを使って研究していただいて、9月にレポートを

提出していただきます。

- 参加者 昨年度一生懸命取り組んでいただいたレポートは見させていただきましたが、その後、ご家庭で使っていただいているか否かの確認はされていますか。
- 事務局 まだ出来ていません。今後、アンケートを取っていきます。
今回、60名近くの参加者がいますので、模造紙の大きさで出していただいたら展示できないので、サイズ的には、A3の用紙で1枚か2枚かにコンパクトにまとめてもらおうと思っています。
- 参加者 せっかく一生懸命取り組んでいただいた物なので、市役所でもいいので、何回かに分けてでも展示いただけたらと思います。
- 参加者 あれは立派な物でした。模造紙でも良いと思います。
- 事務局 いこま博で展示するのであればスペースの問題もありますし、良い作品をピックアップして展示もするのも、展示がある人と無い人がでるのも問題があると思います。
- 座 長 時期をずらしたりして何回かにわければ可能と思います。キエーロのPRにもなります。
- 参加者 子どもの作品が展示されるのを見るのも親としてはうれしいものです。
- 座 長 できますか。
- 事務局 やり方はいろいろあると思いますので考えていきます。
- 参加者 参加費は取るんですか。
- 事務局 無料です。研究結果の作品を提出してもらえば、500円の図書券をさしあげます。
- 座 長 市民会議から参加していただける方を募ります。
《参加者調整》
- 事務局 参加いただける方はよろしくお願いします。名前のあがっていない方も、時間があれば雰囲気を見るだけでもいいので、顔を出して下さい。

●一日環境教室

- 事務局 <一日環境教室パンフレットにより概要説明>
- 座 長 参加希望の方はございますか。
《参加者調整》
- 座 長 人数の制限はありません。せっかくの機会ですので、参加できる方は直前でも結構ですので、都合が付けば追加で申し込んでください。
- 参加者 子どもは、このようなものに参加したら、環境博士とか環境のなんととか何かもらえるとうれしい。親ももらっている姿を見るのは誇らしいものだ。表彰状とか何かあれば良い。
- 事務局 なにか考えます。
- 座 長 私も事務局と下見で見学に行ってきました。クルクル館は皆さん行っておられると思いますが、ぱっと見たらクルクル館と同じ工程に見える。出来上がった

製品は見る事が出来るが、製品になる所は、危険だと言われて見られなかった。生駒市が優秀と解るのは、リサイクル・アンド・イコールは、いろいろな市町村から受けているが、素材の良いものや悪いものを混ぜて均等な物を作っている。素材の良いのが生駒市、どうして解るかと言えば、クルクル館よりリサイクル・アンド・イコールの方が臭いが強い。行程が進んでいけば臭いが弱くなるのが普通だが、逆になっている。質問したら、他市から質の悪いものが紛れ込んでいるからとのことだった。

参加者 参加した小学生に何か差し上げるとのことですが、この市民会議に関わって協力いただいた子どもには、自由研究の参加者に500円の図書券を差し上げるのとは別として、何か同様のものをあげるのも良いのではないのでしょうか。

参加者 「あなたは、博士やでお友達にも広めてね」というレベルで広めていくと「僕は頑張ったな」という感覚が出来ているのではないか。また検討してください。

事務局 検討します。

●分科会について

事務局 当会議におきましては、いろいろな事業・施策を検討していただくわけですが、分科会形式で検討いただくほうがよりスムーズに進んでいくかと思っております。本日は試験的ではございますが、3つの分科会、「広報」、「キエーロ」、「懇談会」の3つのテーマに別れて、自由に討議をして頂こうと考えております。

本日、追加資料としてお配りした分科会資料(広報・キエーロ・懇談会)は、平成29年事業計画作成時皆さんからいただいた意見を分科会ごとにまとめなおしたものです。自由討議の材料として活用ください。

各分科会の代表は、事務局で既に決めております。

他のメンバーの方は、どの分科会に入っていただくかは、今回は抽選とします。今回は、1回目ということで抽選としますが、将来的にはメンバーを入れ替えながら替わっていただければと思いますのでよろしく願います。

座長 大体といたしましては、市民会議で実施したアンケートと資料としてお渡しした皆さんからいただいたご意見をまとめたもの、最近では環境フェスティバルで出た意見等をもとに3つの分科会に分かれてフリートーキングしていただきます。組織化するとかどうのこうのということではなくて、1個1個を全員でやると前回のように空中戦になることもあり得るかもしれませんが、少人数で自由に意見交換していただきます。時間は20分です。

《3つの分科会「広報」「キエーロ」「懇談会」に別れ自由討議 20分間》

各分科会よりの報告(20分経過後)

「広報」

代表者 テーマは、「小型家電回収ボックスをどのようにしてPRしていこう。」ということに絞りました。

施策としましては、手作りのチラシを作っていこうということになった。既にごみ収集日程表に書いてあるとの意見もありましたが、見た人がいない。冷蔵庫には、ごみ収集日程表の表紙が貼ってあって、見ても他のものがいっぱい書いてあって目がいかない。

小型家電に絞った手作りのチラシを作って、方法としては、自治会の回覧等ということになって、自治会の回覧は一杯あって、スピーディに回すことが優先されてあまり中を見ない。回覧の一番上に置いてもらって字を大きくして見なくても目に着くようにする。こういう工夫をする。

自治会の掲示板に掲示していく。

商工会にも広報があるのでそこに載せていこう。

すぐできることからやっていく。

今は、6ヶ所に小型家電回収ボックスを設置しているが、行政では増やしていこうと検討しているが、待ってられないので、第1ステップは、この6ヶ所でのチラシをつくる。

公民館に置くとかスーパーに置く時は、管理面で具体的な制約があるが、「公民館に置く場合は、こういう制約があります。これを守る公民館は手を挙げてください。」「スーパーで手を上げてください。」ということで行政で進めていただきたい。

このチームは、小型家電に絞って広報をしていこうということになりました。

「懇談会」

代表者 昨年度自治会との懇談会を何カ所か行いました。寿大学での懇談会も実施いたしました。市民の年代層もいろいろありますので、それぞれの一方向だけでの懇談会ではなくてそれぞれの年代層にアピールできるような様々なツールを使って実施していくべきだ。という意見がでました。

今年度につきましては、みっきランドでシールアンケートをすとか、育児ネットさんとの懇談会をすとか、実施に向けた調整をすとかお話しをいただきましたので、次回の会議までに実施が決まった場合については、事務局から連絡をしていただきますので、参加できる委員の方はよろしく願います。自治会懇談会につきましては、各自治会で懇談会をしていただいてもまだ会員さんのほうまで浸透していないのではないかとのご意見をいただきましたので、そのへんについても今後実施していただく自治会さんについて事前の打ち合わせの際にそのあたりも含めて、どういうメンバーに出ただけなのかというようなことも打合せをした上で実施したほうが良いという意見になりました。

今年度については、自治会懇談会が実施できていませんので、各地区におかれまして、今年度懇談会を実施していただける自治会をあたっていただいた上、次回の会議が10月10日の予定ですので、各地区で懇談会を実施していただける自治会を1カ所か2カ所か出来るだけお願いしたいということで、ご協力いただける自治会について10月10日までにご報告いただきたいと思っております。

生駒市の職員さんの中でも若い世代の方は、たくさんおられますので、若い世代の方にボランティアとしてこういう広報にご参加いただけないのかとのご意見も出ております。

行政としてこのごみ減量に取り組んでいただくべき課題は、いくつか提示されましたが、行政として取り組んでいただく課題で、問題は行政にお預けするとして、私達は、市民として何ができるかという立場で今後も活動していきたいと思っております。

この懇談会において、今まで質問事項等は出てきたので大体見えてきておりますので、そちらのほうについては、最初の説明の部分でカバーできるころはあるのではないかと思いますので、今年度どういう点をアピールしていくべきかという点、先程の小型家電の話もありますが、ある程度ポイントを絞った上で懇談会を実施しようという話が出ておりました。

後はいろんな意見が出ておりましたけれど、今後それらを参考に懇談会を実施していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

「キエーロ」

代表者 キエーロを普及させるにはどうしたら良いかということで、それに絞って討議いたしました。とにかく、知っている人を増やさなくてはならない。それが大前提で、その為には、今やっている講習会とか、実際に使っている人の話を聞くなどいろいろあったんですが、大きく4つのことに絞って提案ができました。

1つ目は、キエーロの製作を現在、小学生とか一般市民を募集しておりますが、それに併せて、自治会単位でやればどうか、懇談会をやった自治会を中心にはじめて、そこでキエーロの製作講座をしてはどうでしょうかということ。

2つ目は、広報に実際に使用している人の体験談を載せてもらう。こういうふうな使い方をしていきます。これくらい消えますと広報に写真入りで載せてもらう。みんなに知って貰う大きなツールになると思います。

3つ目は、経済効果をわかるようにしてはどうかということ。プランタータイプで参加費を500円取っていますが、500円のもとを取ろうと思ったら、例えば2ヶ月でゴミ袋がこれだけ減って、500円浮きますよと、2ヶ月では

無理かもしれませんが、計算上大体は出ますので、そういったことも含めて経済効果がわかるような取り組みをしたらどうでしょうかということ。

4つ目は、小学生や一般の応募の方から、使用後のレポートをもらおうとされていますが、そのレポートを活用、単に市民会議に持って来てこんなのがありましたと見せたり、いこま博に並べるだけでなく、もっと活用できることは無いのか。具体的にどうしたら良いとかの結論には達していませんが、例えば、1年間の工夫、作品をまとめて冊子を作り、応募いただいた小学校に配るとか、自治会に配るとか、キエーロを普及させるために知ってもらおうという効果があるのではないかとということで、グループでの話は終わりました。

座長 ありがとうございます。それぞれ少人数で話すより具体的な討議をされたんだと思います。今後、今出た貴重な意見、さらに絞って、いっぺんにあれこれできないと思いますので、さらに絞ってやっていくとか、複数出来るのがいいんですが、出来る所から、出来る所からというのは、ノーハウの部分もありますし、経済的な問題もありますので、いろいろな問題を絡めて、出来る所からやっていくことが重要ではないかと思います。

今日出た案件は、議事録を集めて、次の会議で展開していく方法を検討していきたいと思います。

参加者 細かい意見もいっぱい出たんですが、その他にも、市の窓口に来られた方にPRする方法はないのかとか、生ごみ処理については、自治会懇談会で様々な質問が出たときに市としてきちんと答えられるようにしておいてほしいとか、いろんな意見が出たんですが、懇談会前に検討しておかなければならない部分はあるかと思います。こういう形で分かれて話をするのも有効であったと思いますので、また今後の会議の運営についてもお考えいただけたらと思います。

座長 ありがとうございます。時間の関係もありますので、今回のまとめとその他に関しましては、次回に繰り越したいと思います。

ありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。